

あらかん
「阿羅漢」

「アラカン」というと還暦前後の世代という意味として・・・「アラウンド還暦」の略語で使われる事もあるようです。「アラサー」や「アラフォー」という略語の言葉からの派生のようですが、メディアで見聞すると、どうしても仏教で「阿羅漢」を思い浮かべてしまいます。

仏教の阿羅漢は、インドの古い言葉「アルハット」を音で漢字に写した言葉で、尊敬され供養を受けるにふさわしい人という意味です。

当時のインドでは、お釈迦さまをはじめ、仏教に限らず尊敬に値する修行を完成させた聖者はそう呼ばれました。

お釈迦さまの徳をたたえた十種類の呼び名の中に「応ずる」に供養の「供」と書く「おうく 応供」がありますが、これは「アルハット」「阿羅漢」を意味で訳したものです。

修行を完成させ、これ以上学ぶ必要が無い境地という意味の「阿羅漢」と、人生経験が豊かな中で仕事が一段落し充実した時を過ごす、そんな還暦前後の世代を表す「アラカン」・・・同じ響きを持つことが、何とも不思議です。

だいじょうぶ
「大丈夫」

不安や問題が無いことや体が健康なこと、間違いがなく確かなことを伝えるとき、人のことを心配する時など、さまざまな場面で使う「大丈夫」という言葉。良いかどうか確認をする時や遠慮がちに断る時にも使われます。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

この「大丈夫」も、インドの古い言葉「マハープルシャ」を訳した言葉です。「マハー」は大きい・偉大という意味で「プルシャ」は人。つまり、偉大な人という意味です。

そこから転じて仏教では、修行が完成し人格的に優れた人のことを指すようになり、特に禅宗においては、さとりを得るほど十分な修行を積んだ禅僧のことを「大丈夫」と呼びました。

そのことを思うと「大丈夫です」という自分は、人格的に優れた人に少しでも近づくような努力をしているのだろうか、深く考えさせられてしまいます。

さまざまな場面で気軽に使う「大丈夫」という言葉ですが、その言葉の中には仏教的な素晴らしい意味が含まれているのです。

— 終 —